

2001年度卒業論文題目一覧

その他のタイトル	Themen der Diplomarbeiten 2001
雑誌名	独逸文學
巻	46
ページ	173-175
発行年	2002-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/00018129

2001年度卒業論文題目一覧表

- | | |
|-------|---|
| 赤松佳子 | 『哀れなハインリヒ』について |
| 浅井亮介 | ハーメルンの笛吹き男 — 笛吹き男とその正体— |
| 足立祥子 | ミュージカル『エリザベート』に描かれたエリザベート皇后とトートの謎 |
| 石坂さゆり | 『春雨物語』のドイツ語訳と英語訳
— 異文化を訳す— |
| 石田実希 | パン文化と職人 |
| 石原初美 | ドイツの家族とその形態
— 19世紀と現代の家族の絆— |
| 市村実子 | 第三帝国における笑い |
| 井上加耶子 | キリスト教における女性観の変遷 |
| 井上理賀 | ベルリンの壁 壁はドイツ人に何をもたらしたのか |
| 遠藤麻美 | ヘルダーリン『ヒュペーリオン』について
— ディオティーマを中心に— |
| 太田悠一 | トーマス・マン『ヴェニスに死す』における小説と映画の比較 |
| 大土裕子 | ハイネの恋愛詩におけるイメージの対立 |
| 大西加奈子 | ゆとりある教育とは？
— シュタイナー教育から考える— |
| 奥田葉子 | グリム童話における飲食物について |
| 小栗史朗 | ビールの王国 — ドイツビールについて— |
| 梶原伸子 | 第三帝国のユダヤ人 <生き抜く強い意志> |
| 桂依子 | 中世から近代のヨーロッパにおける魔女と女性概念について — 魔女狩りとグリム童話を通して— |
| 金田理奈 | 接続法をめぐって |
| 川濱智 | 走れ！！ 話し言葉
— 映画「ラン・ローラ・ラン」を例にして— |

- 河村 さち子 ドイツ人の旅行, 日本人の旅行
 岸田 和実 『源氏物語』のドイツ語訳と英語訳
 —和歌を中心に—
- 北 友美 グリム童話に見られる数と色について
 —白雪姫を中心に—
- 越尾 文絵 第三帝国下の民衆の心情について
 古林 宏元 自動車広告で見る日本とドイツの比較
 島 真由美 ドイツ人の結婚と儀式
 田原 智美 ゲーテ『ヘルマンとドロテア』に関する考察
 田淵 亜里沙 形容詞における英語とドイツ語の階級構造の比較
 千代田 尚子 「ローレライ伝説」発祥と発展の過程
 —ブレンターノからハイネまでの考察—
- 辻内 篤子 ゲーテ『ファウスト』の三つのプロローグについて
 筒井 宏幸 ドイツに住むトルコ人について
 中島 知沙登 旧東ドイツにおける女性の労働環境
 中西 良恵 ゲーテの『親和力』の一考察
 —オティリエ像を中心として—
- 中村 優子 『ファウスト 第一部』(学者悲劇)について
 長崎 恵美 東西ドイツの言語に関する分析
 —歴史紹介における文構造と語彙を中心にして—
- 額田 純子 ドイツ人の森に対する意識
 濱野 由香理 シュタイナー学校 卒業生たち
 —シュタイナーの言う「自由」とは—
- 日比野 美栄子 ドイツの都市と緑
 細川 裕史 『わが闘争』における言語操作理念と実践
 松山 あけみ アルブレヒト・デューラー《メレンコリアI》と
 《書斎の聖ヒエロニムス》に関する図像学的解釈
 三田 昌季 ゲーテの『ファウスト』から「グレートヒェン悲劇」
 を考える

- 三 野 友里江 クライストの女性観・恋愛観についての考察
—『ペンデジレーア』『ハイルブロンの少女ケートヒ
ェン』を通して—
- 六 車 圭 介 サッカーとドイツ
- 森 井 寛 子 東洋の思想から見るミヒヤエル・エンデ『はてしな
い物語』
- 森 本 真理子 心態詞と人間関係 —LessingのEmilia Galottiを例
にした歴史的語用論の試み—
- 安 田 慎 司 ドイツにおける19世紀と20世紀の新聞とその文体の
比較
- 山 下 明 子 グリム童話集における禁止について
—「夕鶴」との比較を機縁として—
- 山 成 葉 月 Erich Kästner『点子ちゃんとアントン』における道
徳的特徴
- 浅 見 聖 子 ドイツとチェコのNachbarschaftズデーテン地方を
めぐる共存と対立
- 玉 置 未 来 ヨーロッパのカフェ文化と都市生活との関係につい
て
- 平 松 大 輔 ツァラトゥストラにおける超人思想と永遠回帰
- 山 口 勝 ドイツの戦後補償とその原動力
- 山 本 久 美 王導文化論争の意味 —ドイツ社会に潜む文化アイ
デンティティと民族アイデンティティ—
- 槻 木 寛 子 戦争と平和 —Damals war es Friedrichから—
- 田谷野 修 一 ユダヤ人迫害の歴史と背景